

長明發心集 三四



發心集第二目錄

一 江州增叟事 二



一 伊豫僧都大童子頓光現事 三

一 伊豫入道往生事 四

一 讚州源大夫俄發心往生事 五

一 或禪師詣補陀落山事 賀勅上人事八

一 或女房參天王寺入海事 九

一 書寫山客僧斷食往生事 不可謗如土  
此行事

一 蓮花城入水事 五

一 樵夫獨覺事 六

一 證空津師希望深事 十

一 親輔養兒往生事 九

一 松室童子成佛事 九

發心集第三

鴨長明撰

江州增叟事

中比近江國ニ乞食シアリク翁アリケリ立テモ居テモ  
 見事聞事ニツケテミテトノミ云ケレバ國ノ者ニシテノ  
 翁トゾ名付ケルガセル徳モ十ケレドモ年來ヘツライア  
 リキケレバ人モ皆シリテ見ユルニタガヒテアハレシケリ  
 其時大和國ニアル聖ノ夢ニ此翁必ズ往生スベキ由  
 ニタリケレバ結縁ノタニ尋來テ則翁ガ草ノ菴ニヤ  
 ドリニケリガクテ夜ルナンド何ナル行ヲカスラントテ  
 聞ドモ更ニツトムル事ナシ聖リ何ナル行ヲカナスト問

ハ翁更ニ行ナキ由ヲ答フ聖重テ云ヤウ我ニコトハ汝ガ  
往生スベキ由ヲ夢ニ見侍テゲレハウサト尋來也カクス事  
ナカレト云フ其時翁云ク我誠ハ一行アリ則ミテト云  
フコトクサ是也ウヘタル時ハ餓鬼ノ苦ニラ思ヤリテ増テト  
云フ寒クアツキニ付テモ寒熱地獄ヲ思事又如是諸ノ  
苦ニニアフコトニイヨク惡道ヲオフルムマキ味ニアヘル時ハ  
天ノ甘露ヲ觀ジテ執ヲトメズ若クエナル色ヲ見勝  
タル聲ヲキカウバシキ香ヲキク時モ是何ノ數ニカハアラン  
彼極樂淨土ノヨソヲヒ物ニラレテ増テイカニカ目出カラ  
ント思テ此世ノ樂ニラケラストゾ云ケル聖此事ヲ聞テ

淚ヲ十カニ掌合テナム去リニケル必シモ淨土ノ莊嚴ヲ  
觀セ子ドモ物ニラレテ理リヲ思ケルモ又往生ノ業トナ  
ナリニケリ

伊豫僧都大童子頭光現事

奈良ノ都ニ伊豫僧都ト云人アリケリ白河院ノ末ニヤアヒ  
奉リケン近キ世ノ人ナルベシノ僧都ノモトニ年ゴロツカフ  
大童子アリケリ朝夕ニ念佛ヲ申事時ノ間モヲコタラス  
アル時僧都ノ夜フケテ物ヘ行ケルニ此童火ヲトモシテ  
車ノサキニ行ヲミレバ火ノ光ニ互井ジテ頭ノ光アラハレタ  
リアサマシクメツラカニ覺テ人ヲヨヒテ此火ヲ車ノ上ニ

トモスカクテ又ムカ井テ是ヲ見ルニギヲ先ノ如クニアキラ  
 カ也。鬼角云ハカリナシ。其後此童ヲヨビテ云ヤウ年モ  
 ヤウノハタカクナリタリ。カク念佛ヲ申イト貴シ。今テハ  
 宮ツカヘサハリアリ。ギル方ナク念佛ニテイタレガシ。  
 然ハクヒ物ノ爲ニイサカ田ヲ分テトラセント云フ童  
 何事ニ思食アキテ侍ニカ。宮ツカヘ仕ルトテ念佛ノ  
 サハリニナル事モ侍ラズ。身ノタエテ侍ラン程ハツカニツ  
 ラントコソ思ツレ。イトホ井ナクナド云フ。ソノテイノ  
 事ニアラストテ事ノイハレヲヨクク云キカセケレハシ  
 カラハ畏リ侍リトテ此田ヲフタリモキタリケル子ニ分

トラセテナン食物ヲハ沙汰セサセケルカクテ猿澤ノ池ノ  
 カタハラニ一間ナル菴リ結テイト、他念ナク念佛ニ  
 テ居タリケレバ本意ノ如ク臨終正念ニテ西ニ向テ掌  
 ヲ合テヲハリニケリ。往生ハ無智ナルニモヨラス。山林ニ跡  
 ヲクラウスルニモアラス。只云フカヒナクコウツメル物カクノ如

伊豫入道往生事

伊豫守源頼吉ハ若クヨリ罪ヲノミ作リテ聊モ懺愧ノ  
 心ナカリケリ。況や御門ノ仰ト云ナガラ。三千ノ國ニムカヒ  
 テ十二年ノ間謀叛ノ輩ヲホロボシ諸ノ眷屬境界ヲ  
 失ヘル事數ヲレラス。因果ノ理ハリ空シカラス。ハ地獄ノ

報疑十カラシト見へケルニ身ノハノ入道トテ先立テ世ヲ  
ツムケル者アリケリ。アリフニ此世ノ無常身罪ノムクヒ  
ノオソルキ様ナンドヲ云ケルヲ聞テ忽ニ發心シテカニ  
ラヲロシテ一筋ニ往生極樂ヲ子ガヒケリ彼三ノハノ入  
道カツクレリケル堂ハ伊豫入道ノイエムカヒサメウジ西  
洞院ナリ三ノワ堂ト云テ近クニテアリキ彼堂ニテ行  
ナフ間ニ昔ノ罪ヲク井カナシニケル涙板敷ニヲキツモ  
リテ大床ニツタハリ大床ヨリ流テ土ニ落ルニテナシキ  
キケル其後カタリテ云ク今ハ往生ノ子ガヒ疑ナクトケ  
ナントス勇猛カウシヤウナル心ノヲコレル事ムカシ衣川ノ

タチヲ落サント世ニ時ニ異ナラズトナシ云ケルニコトニ  
終リ日出テ往生シタル由傳ニシルセリ多ク罪ヲ作レ  
リトテヒゲスベカラス深ク心ヲ發シテツトメ行ナハ往生  
スル事又如是ツノ息ハツ井ニ善知識モナク懺悔ノ心モ  
ヲコサマリケレハ罪ホロズベキ方ナシ重キ病ヲウケタリ  
ケル比ムカヒニスミケル女房ノ夢ニ見ルヤウサマぐスカタ  
シタルヲソロシキ物數モシラズソノアタリヲ打カゴメリ  
如何ナル事ソト尋ヌレハ人ヲカラメントスルナリト云フ  
トバカリアリテ男ヲヒトリヲ井立テ行サキニ札ヲサシ  
アゲタルヲミレバ無間地獄ノ罪人トカケリ夢サメテ

イトアヤシク覺テ尋ケレバ此曉ハヤクウセ給ヌトナン云ケル  
讚洲源大夫俄發心往生事

讚岐國ニ何レノ郡トカ源大夫トイフ者アリケリ左様ノ  
者ノナラヒト云ナガラ佛法ノ名ヲダニシラスイキ物ヲ  
コロシ人ヲホロホスヨリ外ノ事ナケレバ近モ遠モヲギヲ  
ソレタル事限リナシ或時狩ニテ歸ケル路ニ人ノ佛供  
養スル家ノ前ヲスクトテ聽聞ノ者ノ集レルヲ見テ  
ニワザラスレバ人ハヲホカルヅト問フ郎等ノ云ク佛供養  
ト云事ニ侍ナリト云フイテヤケウカリ未見ヌ事ゾト  
テ馬ヨリ下テカリシヤウソクノミナガラ中ヲ分入ニハモ

セニゴ、ヲ井タル人是ナサケナシトミルニム子ツブレテヒラガ  
リヲリ。コ、ヲノ人ノカタヲユエテ導師ノ法トク。カタハラニ  
近ク居テ。コトノ心ヲ問フ。僧ヲソロシナガラ説法ヲトメ  
テ阿弥陀ノ御千カヒタノモ敷事極樂ノタノシキ此世  
ノ苦無常ノ有様ナンドヲヨマカニ説キカス此男云ヤウ  
イトくイミシキ事ニソソサスハ我法師ニナリテ其佛ノ  
ヲハシマサン方へ忝ラント思ニ道ヲシラス心ヲイタシテ  
ヨロ奉ラント思ニイラス給ヒナンヤト云フ誠ニフカク心ヲ  
オコシ給ハ、必イラへ給フベシト答フサスバ我ヲ只今法  
師ニナセト云フ。アレウノマ、ニテトモカクモイヒヤラス其

時郎等ヨリキテケフハ物サガレク侍リカヘリ給テソノ  
 用意ニテ出家シ給ハヨロシカラント云フニハラダキテ  
 フノレカ斗ニテハ我思立タル事ヲバイカテサメタゲント  
 スルソトテ眼ヲイカラカシテ太刀ヲ引テハ世ハ恐ヲノ、  
 キテ立ノキヌ大方今日ノ願主ヨリ始テアリトアル  
 人色ヲウシナヘリ近ク居ヨリ只今カシラソレゾラテア  
 シカリナントシキリニセムレハ道ベキ方ナクテウナクク  
 法師ニナレツ衣ケサ乞テウチ著テ是ヨリ西サニ  
 ムキテ聲ノ有限リ南無阿弥陀佛ト申テ行是ヲ  
 聞人涙ヲナガシテ哀ムガクシツ、日ヲ經テハルカニ行々

テスエニ山寺アリケリゾコナル僧アヤシニテ事ノ心  
 ヲ問フシカクトアリノ、ニ云ヘバ貴トニ哀ム事カギリ  
 ナシサテモ物ホシクヲハスラントニ干飯ヲイサ、カ引ツ  
 ツミテトニセケレバツユ物クハ心ナシダ、佛ノイラエ  
 給ハンニテハ山林海川ナリトモ命ノタエンヲ限リニテ  
 行ント恩心ノニ深テ其外ニハ何事モヲボヘズトテナラ  
 西ヲサシテヨバヒ行彼寺ニヒトリノ僧アリ跡ヲ尋ツユ  
 キテ見レハ遙ノ西ノ海キハニサシ出タル山ノハナルイワノ  
 上ニ居タリ語リテ云コ、ニテ阿弥陀佛ノイラヘ給ヘバ  
 待奉ルナリト云テ聲ヲ擧テヨビ奉ル誠ニ海ノ西ニカ



スカニ御聲ミコエキコエケリ。キ、給タマヒニヤ。今ハハヤ歸カヘリリ給タマヒ子サ  
テ七日スナヒバカリ過スナヒテ又ヲハシテ我ワガナリタランスガタサマ  
ヲ見給ミタマヒヘト云イハケレバナクク歸カヘリニケリ其後イハニ云イハレガゴト  
ク日比ヒコロヘテツノ寺ノ僧アマタイザナヒテ行イテ問トヘルニ  
モトノ處トコロニ露ツユモカハラズ。タナ心ヲ合アツ、西ニムカヒテ  
子フリタルガ如クニテ居イタリ舌シタノサキヨリ青アヲキハ千ス  
ノ花ナシ一フサヲヒ出イタリケルヲノク佛ノ如クヲガミニテ  
此花コノハナヲトリテ國ノカミニトラセタリケルヲモテノボリ  
テ宇治殿ウヂノミヤニツ奉タテマツケル功コトツメル事ナケレドモ一筋ヒトスジニ憑タカ  
奉ル心フカケレバ往生スル事ニタカクノゴトシ

或禪師詣補陀落山事

賀東上人事

近チカク讚サヌキ岐サニノニ位ト云人イマツカリケリ彼カメノトノ男ヲトニニ  
テ年トシゴロ往イ生イヲ子ガテ入道アリケリ心ニ思ヲモヒケルヤウ  
此身コノミノ有アリ様サマ万マンノ事心ニ不ス叶カハモシ若モシアリキ病ヤマトナシトウ  
ケテ終ヲハリ思ヲモフヤウナラズハ本ホン意イトケン事極キハクニテカタ  
シ病ヤマトナクテ死シナシバカリコソ臨終リンシウ正念シヤウシンナラヌト思ヲモテ  
身燈ミントウセント思ヲモフサテモタエヌベキカトテ。クワト云物  
ヲニツアカクナルニテヤキテ左右ノワキニサシハサミ  
テ。シバシバカリアルニヤケコガル、様目サマメモ當アテラレズド斗  
アリテゴトニモアラザリケリト云テ其カマヘドモシケル

程ニ又思フヤウ身燈ハヤスクレツベシサレド此生ヲ改  
テ極樂ヘニウデンセンモナク又凡夫ナレバ若ヲハリニ  
至テイカ、猶疑フ心モ有補陀落山コソ此世間ノ内  
ニテ此身ナガラモ詣テヌベキ所ナレシカラバカレヘ詣  
テント思ナリ又即ツクロ井ヤメテトサノ國ニ知處アリ  
ケレバ行テ新キ小船一ツマウケテ朝夕コレニノリテカ  
チトルロザヲ習フツノ後梶トリヲカタラヒ北風ノ多  
ク三十ク吹ツヨリヌラン時ハツケヨト契リテ其風ヲ待得  
テ彼小船ニ帆カケテ夕、一人乗テ南ヲサシテノリニ  
ケリ。メコアリケレド。カ程ニ思立タル事ナレバ留ルニカイ

四聖寺 徳州  
聖徳太子建立  
佛は最勝也

ナシ空ク行カクシヌル方ヲ見ヤリテナンナキ悲ケリ  
是ヲ時ノ人心ガシノ至リアサカラズ必ズマイリヌラントツ  
ヲシハカリケル一條院ノ御時トカ賀東ヒジリト云ケ  
ル人此定ニシテ弟子獨相具シテマイル由語傳タル  
跡ヲ思ヒケルニヤ  
或如房叅天王寺入海事  
鳥羽院ノ御時アル宮腰ニ母トムスメト同シ宮ツカヘヌル  
女房アリケリ。年比ヘテ後此女母ニサキ立テハカナク  
成ニケリ。歎キカナシム事限ナシ。シバシハカタヘノ女房モ  
サコソ思ラメ理リゾナンド云程ニ二年二年バカリスキヌ

其歎更ニヲコタラスや、日ニツエテイヤマサリユケバ折ア  
 レキ時モ多カリコトイニスベキ比ヲモ分ス涙ヲオサヘ  
 ツ、アカシ暮スヲ人目モヲビタ、レクハテニハ此事コソ心  
 得子ヲクシ先立ナラヒ今初ケル事カハナンドロヤスカ  
 ラスザ、メキアヘリカクシツ、三年ト云年アル曉二人ニ  
 モツゲス白地ナル様ニテマギレイテキ又一ツテバコ一ツ  
 計ヲナン袋ニ入テメノワラハニモタセタリケル京ヲハ過  
 テ鳥羽ノ方へ行バ此メノ童心ヘス思フ程ニナラクユキ  
 ユキテ日暮ヌレバ橋本ト云所ニ留リヌ明ヌレバ又イテ  
 又カラウシテ其夕ベ天王寺ヘマウテツキタリケルサテ

人ノ家カリテ是ニ七日バカリ念佛申バヤト思ニ京ヨ  
 リハ其用意モセズ夕、我身トメノ童トゾ侍ルトテ  
 此持タリケル衣ヲ一ツヌギテトラセタリケレバイト  
 安キ事トテ家主ナン其程ノ事ハ用意シケル  
 カクテ日毎ニ堂ニマイリテヲガミメグル程ニ又コト思  
 セズ一心ニ念佛ヲ申タリケル手箱キヌ一トハ御舎  
 利ニ奉リヌ七日ニミチテハ京ヘ歸ルベキカト思程ニ  
 兼テ思シヨリイミシク心モスミテタノモシク侍リ此次  
 ニ今七日トテ又衣一トラセテニ七日ニナリヌ其後聞  
 ハ三七日ニナシ侍ラントテ猶キヌヲトラセケレバナニカ

ハカク夕ゴトニ御用意ナクトモ。サキニ給ハセタリシニテ  
モ。バシハ侍ヌベシト云ヘド。サリトテ此料ニ具シタリシ  
物ヲ持テ歸ルベキニ非ストテ。シ井テ猶トラセツ。ニ七日  
ガ間々念佛スル事ニ心ナシ。日數ニキテ後云ヤウイ  
ハ京へ上ルベキニトリテ音ニキク難波ノ海ノ床敷ニ見  
セ給テシヤト云ヘバイト安キ事トテ家ノアルジ。シルベ  
シテ濱ニ出ツ、則舟ニアヒノリテユギアリクイト面自  
テ今少しくト云程ニヲノツカラ澳ニ遠ク出ニケリ。カク  
テトバカリ西ニ向テ念佛スル事ニバシアリテ海ニツブト  
落入ヌ。アナイミジトテ。ミトヒシテトリアゲントスレド石

ナドヲナゲ入カ如クニシテ沉ヌレバアサミシトアキレサハ  
グ程ニ空ニ雲一村出來テ舟ニウチヲホヒテカウバシ  
キ白アリ家主イト貴クアハシニテ泣々コギ歸ニケ  
リ。ソノ時濱ニ人ノヲホク集リテ物ヲ見會タルヲ知ヌ  
様ニテ問ケレバヲキノ方ニ紫ノ雲立タリツルナント云  
ケル。サテ家ニ歸テアトヲ見ルニ。此女房ノ手ニア夢  
アリ様ヲ書付タリ。初ノ七日ハ地藏龍樹來リテ向へ  
給ト見ル。ニ七日ニハ普賢文殊向給トミル。ニ七日ニハ  
阿弥陀如來諸ノ菩薩ト共ニ來リテ向給ト見ルトツ  
書置タリケル

書寫山客僧斷食往生事

不可謗如  
此行事

幡摩書寫山ニ外ヨリウカレ來タル持經者アリケリ所ノ  
人ノナサケニテナム年比過ケル取ワキ長者ナル僧ヲ  
相憑タリケルニ比持者云ケル様我フカク臨終正念  
ニテ極樂ニ生レン事ヲ子カヒ侍レド其ヲハリ知カケレ  
バゴトナル妄念モ起ラス身ニ病モナキ時此身ヲ捨テト  
思ヒ侍ナリツレニ取テ身燈入海ナンドハゴトサマモアリ  
キハヤカナリクルニモ深カルベケレバ食物ヲ斷テヤ  
スラカニヲハリナント思立テ侍ル心ヒトツニテサスカナ  
レバカク申合スル也宛賢口ヨリ外へ出シタニヲナ居所

八南ノ谷ニト置テ侍リ今テハ罷ヨモルバカリ後ハ無言ニ  
テ侍ベケレバ申兼事ハ今日ガカリナルベキト云ケレバ淚  
ヲ落ツイトク哀ナリサ程ニ思立シタル事ナレバトカ  
ク申ニヲヨバス但ヲボツカナクオボエン時ヲノツカラ忍  
ツ行テ見申サン事ハ許シ給フヤト云フ其ハサナリ  
ヘダテ奉子バゴツカクハ聞ユレナドヨクク云契リテ行カ  
クレヌ哀ニ有カタクヲボヘテ日々ニモユキ訪ハホシケ  
レトウルサクグ思ハントハカル程ニ自ラ日比ニナリス七  
日バカリ過テラシヘシ處ヲ尋行テ見レバ身一ツ入ル程  
ナル少キ菴ヲ結テ其内ニ經ウチヨミテ居タリサレヨ

リテイカニ身ヨハククルシクナンドヤヲスルナド問ハ物ニ  
 書付テ返事ヲ云フ日比イニジククルシク覺テ心ヨハ  
 クヲハリモ如何ト覺ヘ侍シテ。此二三日ガサキニミドロミタ  
 リシ夢ニヲサナキ童子ノ來リテロニ水ヲソクト見テ  
 身スシクカモツキテ今ハウレフル事侍ラス當時ノ様  
 ナラハヲハリモ願ノ如クナラシナド云イヨク貴ク浦山  
 敷テ返テ又其後餘リメツラカナル事ナレハ思ニサ  
 リガタキ弟子ナトニコソバヲノツカラモ語リケメ。此事  
 ヤウク聞テ此山ノ僧ドモ結縁セントテ尋行アナイミ  
 ジ。サバカリ口堅メシ物ヲトイヘド不叶ニハ郡ノ内ニ普

聞テ近キ遠キモアツマリノシル此老僧イタリテ心ノ  
 及カキリ制スレド更ニ耳ニ聞入ル人タニナシ彼僧ハ物ヲ  
 イハ子ドイニジク侘シゲニ思ヘルケシキヲ見ルニモ偏ニ  
 我アヤチナレバクヤレクカタハライタキ事限ナシカ  
 クテ夜ヒルヲ分ス様々ノ物ナゲカケ米ヲマキヲカニ  
 ノシレハ便アルヒトモ見ヘヌ程ニイカニタリケン此  
 僧ヨルイツチトモナクハイカクシヌヨミヲ集ル者トモ手  
 ヲ分テ山ヲフミアサリ求ドモ更ニナシサテモ不思  
 儀ナリヤナンド云テケル。後十餘日ヘテナン思カケズ  
 彼跡ヲ見ツケタリケンモトノ所ヲツカニ五六タシガリ

ノキテ。イサカ真業ヲカク生タルカグレニ佛經ト紙  
衣ト斗ゾアリケル此三四年カ程ノ事ナレ彼山ニ  
見ヌ人ナレトゾ未ノ世ニハイト難有事ナリカレスヘ  
テハ諸ノ罪ヲツクル皆此身故ナレバカヤウニ思取テラ  
ハリヲモ往生ヲモ望メンニハ何ノ疑カアラン然ト濁世  
ノ習ニ我カ分ナラヌ事ヲ子ガヒヤクモスレハ是ヲソシリ  
テ云先ノ世ニ人ニクヒ物ヲ與ズレテ分ヲ失ヘルムクヒ  
ニ自ラカハルメヲニルゾトモ云ヒ或ハ天魔ノ心ヲタラ  
カレテ人ヲ驚メ後世ヲサメタゲントカマウルゾナドモ  
云ベシ誠ニ宿業ハレリガタキ事ナレドサノミイハイツ

レノ行カハタノレクユタカナル皆ホシキ味ヲレノ身ヲ  
クルシメ心ヲクダクヲモトス是悉ク人ヲワビシメタル  
ムク井トヤサダメントスル況ヤ佛菩薩ノ因位ノ行皆  
法ヲ重ジ分ヲカロクス其跡ヲオハヌ我心ノツタナキニ  
テユソアラメタマク學ベキヲソシルニハ不及事也彼善  
導和尚ハ念佛ノ祖師ニテ此身ナガラ證ヲ得給ヘル  
人ナリ往生疑ベクモアラザリレカド木ノ末ニボリテ  
身ヲナゲ給ヘリ人ノ爲ハアシキ事ヲレツメ給ハンヤハ  
又法華經云若人心ヲ起テ菩提ヲ求メント思ハハ手  
ノ指足ノユビヲトボシテ佛陀ニ供養セヨト國城妻子

及太子國土モ口くノ寶ヲモテ供養スルニ勝レタリトノ  
給ヘリ此事ウチ思ニ八人ノ身ヲヤク皮クサクケガフハシ  
佛ノ御爲ニ何ノ御用ヤアラス云ハ一フサノ花ニモヲ  
トリ一ヒ子リノ香ニモ及難ケレド心サシ深クシテ苦ミヲ  
忍フ故ニ大ナル供養トナルコソハアラスサルニテハ若人  
イサキヨキ心ヲ發シテヲモハク太子國土勝タル供養  
トノ給ハコソ我等ガ爲ニハ難カラヌ此身ハ我有ナリ然  
モ夢ノ如クシテ空シク朽ナントスナニカハ一指ニカギラ  
ンサナカラ身命ヲ佛道ニナゲテ一時ノクルレニ無始  
生死ノ罪ヲツクノヒ佛ノカヒニヨク臨終正念ナル事

ヲ得ント深ク思ヒトリテク井物ヲモタキ身燈入海シモ  
センニハタレ故發シ給ヘル悲願ナレバカ引接シ給ハサラン  
サズ今ノ世ニモカ様ノ行ニテヲハリヲ取人マノアタリ  
異香ニホヒ紫雲タナビキテ其瑞相アラタトルタメシヲ  
ホカリ即カノ童子ノ水ヲツキケンモ證ニハアラスヤアラ  
キテ可信疑テ何ノ益カハアルレカルヲ我心ノ及ヌマニ  
自ラ信セヌノミナラズ他人ノ信心ヲサヘミタルハ愚癡ノ極  
レルナリ

蓮花城入水事

近比蓮花城ト云テ人ニ知レタル聖アリキト蓮法師



アヒ知テ事ニラレ情ヲカケツ、避ケル程二年比アリテ。此  
聖ノ云ケル様ハ今年ニソツヨクナリ罷レバ死期近  
付事疑ヘカラスヨハリ正念ニテ罷カクレン事極ル望三  
ニテ侍ルヲ心ノスム時入水ヲレテ。ヨハリ取ント侍ルト云ト  
蓮聞驚テ可有事ニモ非ス今一日ナリトモ念佛ノ功ヲ  
積ントヨソ願ハルベケレサ様ノ行ハ愚癡ナル人ノスルワサ也  
ト云テイサメケレト更ニユルギナク思ヒ堅タル事ト見ヘケ  
レバカク是程思取レタランニ至テハ留ムルニ不及サルベキニ  
コソアラメトテ其程ノ用意ナントカヲ分テモロトモニ沙  
汰レケリ終ニ桂河ノ深キ所ニ至テ念佛タカク申時へ

テ水ノ底ニ沈ニヌ其時聞及フ入市ノ如ク集リテ且ハ  
貴ニ悲フ事限ナレト蓮ハ年ゴロ見ナレタリツル物ヲト  
哀ニ覺テ涙ヲ押ツ、歸ニケリカクテ日比フル、ニト蓮  
物ノケメカレキ病ラスアタリノ人アヤシク思ニテコト、シケ  
ル程ニ靈アラハレテアリシ蓮花城ト名ノリケレバ此事  
ゲニト覺ヘズ年ゴロ相シリテヨハリマテ更ニ恨ラルベキ事  
ナレ況ヤ發心ノサ、ナラザリナラス貴クテヨハリ給ヒシニ  
非スヤカタク、何ノ故ニヤ思ハヌサマニテ來ルラント云フ物  
ノケノ云ヤウ其事也ヨク制シ給ヒシ物ヲ我心ノ程ヲ  
シラテ云甲斐斐ナキ死ニヲシテ侍リサバカリ人ノ爲ノ事

ニモアヲ子バ其キハニテ思カヘスベシトモ覺ヘザリシカドイ  
カナル天魔ノレワザニテ有ケンサシク水ニ入ント世シ時  
忽ニクヤシクナンナリテ侍レサレドモサバカリノ人中ニ  
イカニシテ我心ト思カヘサン哀々今制シ給ヘガシト  
思テ目ヲ見合タリレカド知ヌガホニテ今ハトクト  
モヨラシテ沉テン恨メレサニ何ノ往生ノ事モヲボヘス  
ス、ロナル道ニ入テ侍ル也此事我愚ナル過ナレハ人ヲ  
恨申ベキナラ子ト最期ニ口惜ト思シ一念ニヨリテカク  
マウテ來ルナリト云ケル是ヨツケニ宿業ト覺ヘテ侍  
レ且ハ又末ノ世ノ人ノ誠トナリヌベシ人ノ心ハカリガタ

キ物ナレバ必シモ清淨質直ノ心ヨリモヲコラス或ハ勝他  
名聞ニモ住シ或ハ憍慢嫉妬ヲモトシテヲロカニ身燈  
入海スルハ淨土ニ生ルゾト計シリテ心ノハヤルマニ加様  
ノ行ヲ思立事シ侍リナン即外道ノ苦行ニヲナシ大  
ナル邪見ト云ベシ其故ニ火水ニ入グルレ三十ノメナラス  
其心ガシ深カラズハ如何カタ工忍ハシ苦患アレバ又心ヤス  
カラズ佛ノ助ヨリ外ニハ正念ナラン事極テ堅シ中ニモ  
愚ナル人ノコトクサミテ身燈ハエセシ水ニハ安シテント申  
侍メリ則餘所目ナダラカニテ其心シラヌユヘナルベシ或  
聖ノ語リレハ彼水ニヲボレテ既ニ死ナント仕シヲ人ニ

助<sup>テ</sup>ラレテカララシテイキタル事侍リキ。ソノ時八十<sup>ヨ</sup>  
 一水入テ<sup>サ</sup>責<sup>シ</sup>程ノ<sup>ル</sup>ル<sup>シ</sup>ミハ<sup>タ</sup>ト井地獄ノ<sup>ク</sup>苦<sup>ナ</sup>リトモ  
 サバカリコソハト覺<sup>ヘ</sup>侍リシカ。然<sup>ラ</sup>人ノ水ヲ<sup>ア</sup>安<sup>キ</sup>事ト思  
 ヘルハ未ダ水ノ人殺<sup>ス</sup>様ヲ<sup>シ</sup>ラヌ也ト申侍リシ。或人ノ云  
 諸<sup>ノ</sup>行ハ皆我心ニアリ。ミツカラ<sup>テ</sup>勤<sup>テ</sup>自カ知ヘ<sup>シ</sup>餘所  
 ニハハカラヒ難<sup>キ</sup>事也都<sup>テ</sup>過<sup>ク</sup>去<sup>ノ</sup>業<sup>因</sup>モ未<sup>ミ</sup>來<sup>ノ</sup>果<sup>報</sup>  
 モ佛<sup>天</sup>加<sup>護</sup>モウキ<sup>傾</sup>キテ我心ノホドヲ<sup>ア</sup>安<sup>セ</sup>バ<sup>ラ</sup>ノツ  
 カラヲ<sup>シ</sup>ハカラレヌベシ且<sup>ク</sup>一<sup>コ</sup>トヲ<sup>シ</sup>顯<sup>ハ</sup>ス若<sup>シ</sup>人佛道ヲ<sup>行</sup>  
 ナ<sup>シ</sup>爲<sup>ニ</sup>山<sup>林</sup>ニモ<sup>一</sup>ジ<sup>ハ</sup>リ<sup>ビ</sup>ト<sup>リ</sup>墻<sup>野</sup>ノ中ニモ<sup>ラ</sup>ラン  
 時猶<sup>身</sup>ヲ<sup>恐</sup>シ<sup>壽</sup>ヲ<sup>惜</sup>心アラバ必<sup>シ</sup>モ佛擁護<sup>シ</sup>給<sup>フ</sup>

ラントハ<sup>馮</sup>ベ<sup>カ</sup>ラ<sup>ス</sup>ガ<sup>キ</sup>カ<sup>ベ</sup>シ<sup>モ</sup>カ<sup>コ</sup>井<sup>道</sup>ベ<sup>キ</sup>カ<sup>ヘ</sup>ラ  
 シテ。自<sup>ラ</sup>身<sup>ヲ</sup>守<sup>リ</sup>病<sup>ヲ</sup>タ<sup>ス</sup>ケ<sup>テ</sup>ヤウ<sup>ク</sup>ス<sup>ニ</sup>ミ<sup>ン</sup>事  
 ヲ願<sup>ツ</sup>ベシ若<sup>シ</sup>ヒ<sup>タ</sup>ス<sup>ラ</sup>佛<sup>ニ</sup>奉<sup>リ</sup>ツ<sup>ル</sup>身<sup>ゾ</sup>ト<sup>思</sup>テ。虎<sup>ヲ</sup>  
 ホカニ來<sup>リ</sup>テ<sup>犯</sup>ストモ<sup>ア</sup>ナ<sup>ガ</sup>キ<sup>ニ</sup>恐<sup>ル</sup>心<sup>ナ</sup>ク<sup>ク</sup>食<sup>物</sup>  
 タ<sup>エ</sup>テ<sup>ウ</sup>エ<sup>死</sup>ヌト<sup>モ</sup>ウ<sup>レ</sup>ハ<sup>シ</sup>カ<sup>ラ</sup>ズ<sup>覺</sup>ル<sup>程</sup>ニ<sup>ナ</sup>リ<sup>ナ</sup>バ<sup>佛</sup>モ  
 必<sup>ス</sup>擁<sup>護</sup>シ<sup>給</sup>菩<sup>薩</sup>モ<sup>聖</sup>衆<sup>モ</sup>來<sup>リ</sup>テ<sup>守</sup>リ<sup>給</sup>フ<sup>ベ</sup>シ  
 法<sup>ノ</sup>惡<sup>鬼</sup>モ<sup>毒</sup>獸<sup>モ</sup>便<sup>ヲ</sup>得<sup>ベ</sup>カ<sup>ラ</sup>ズ<sup>ヌ</sup>ス<sup>人</sup>ハ<sup>念</sup>ヲ<sup>起</sup>シ  
 テ<sup>サ</sup>リ<sup>病</sup>ハ<sup>佛</sup>カ<sup>ニ</sup>ヨ<sup>リ</sup>テ<sup>イ</sup>エ<sup>ナ</sup>是<sup>ヲ</sup>思<sup>ワ</sup>カ<sup>ズ</sup>心<sup>心</sup>ト  
 シ<sup>テ</sup>ア<sup>サ</sup>ク<sup>佛</sup>天<sup>ノ</sup>護<sup>持</sup>ヲ<sup>タ</sup>ノ<sup>ム</sup>ハ<sup>ア</sup>ヤウ<sup>キ</sup>事<sup>也</sup>ト<sup>カ</sup>  
 タ<sup>リ</sup>侍<sup>リ</sup>シ<sup>此</sup>事<sup>サ</sup>モ<sup>ト</sup>キ<sup>コ</sup>ユ

樵夫獨覺事

近比近江國二池田ト云所ニイヤシキ男アリケリシノガ  
身八年タケテ若キ子ヲナンモ子タリケルフタリ相具シ  
テナスヘキ事アリキ。奥山へ入タリケルニ良夕ヤスニ居タ  
リ比ハ十月ノ末ニヤアリケル。木枯スサマシク吹テ木ノ  
木葉雨ノ如ク乱ケル。父コレヲ見テ云ヤウ汝此木葉ノ  
チルヲ見ルヤ是ヲ静ニ思ツクシバ。我身ノアリサニ聊モ  
カハラヌナリ。其故ハ春ハ三ルクト若葉サシソメタリト見  
シ程ニヤウクシケリテ。夏ハ三十盛ニナリニキ。八月ガカリ  
ヨリ青キ色黄ニ改メテ後ニハ紅アカクコカレツ。今ハ

少シ風吹バモロクチル。落テハツ井ニ朽ナントス。我身モ又  
是ニシナジ十歳ハカリノ時。辟ハ春ノ若葉ナリニ三十  
ニテ盛ナリシ時ハ夏ノ梢カゲシゲリテ心地ヨゲナリシ  
比ニ似タリ。今六十ニアリ黒カニヤ、白クシハ夕々ミバタヘ  
カハリ行即秋ノ色ツクニ異ナラズ。未嵐ニ千ラズト云バ  
カリ也。ソレ又今日明日ノ事ナルベシ。カクアタナル身ヲ  
不知世ヲスゴサントテ朝夕云ハカリ苦シキ目ヲ見テ走  
イトナム事コソ思ヘバヨシナケシ。我ハ今テハ家ヘモ歸ミ  
法師ニナリテ爰ニ居テ此木葉ノ有様ナント思ツ、  
ケツ。ノトカニ念佛シテヲラント思フ。ワ玉八年モ未ワ

カシ未<sup>ミ</sup>ハルカナレバトク歸<sup>キ</sup>リ子ト云フ。此男<sup>コトコ</sup>ノ云ヤウ誠<sup>マコト</sup>ニ  
タガハズノ給<sup>タマフ</sup>フ所ハ云レタレド菴<sup>イホ</sup>リ一モナレ田<sup>タ</sup>島<sup>シマ</sup>ツクル  
ベキ便<sup>タビ</sup>モナレ。スベテ雨風ノ苦<sup>クルシ</sup>ニケダモノ、ヲソレ一トシ  
テ夕<sup>ユフ</sup>ヘ忍<sup>シ</sup>ズベキ所モ非<sup>アラ</sup>ズイカニシテカ獨<sup>ヒトリ</sup>ハスニ給<sup>タマフ</sup>ハンサ  
ラハ我<sup>ワレ</sup>モ具<sup>ツク</sup>シ奉<sup>タマフ</sup>リテ。木<sup>キ</sup>ノミヲモ拾<sup>ヒロ</sup>ヒ水<sup>ミヅ</sup>ヲモ汲<sup>ヒ</sup>テ。イカニモ  
ナリ給<sup>タマフ</sup>ハン様<sup>ヤマ</sup>ニコソハナラメ。今<sup>イマ</sup>ヨハヒ盛<sup>サカ</sup>ナリト云トモ。夕<sup>ユフ</sup>トヘ  
ハ夏<sup>ナツ</sup>ノ木<sup>キ</sup>葉<sup>ハ</sup>ニコソ侍<sup>シ</sup>ルナレ。ツ井<sup>ツヅ</sup>ニ紅葉<sup>コノハ</sup>ニテチラン事<sup>コト</sup>疑<sup>ウタガ</sup>  
ナレ。何<sup>ナニ</sup>況<sup>シ</sup>ヤ木<sup>キ</sup>葉<sup>ハ</sup>ハ色<sup>イロ</sup>ツキテコソ千<sup>チ</sup>ル物<sup>モノ</sup>ナレ。人<sup>ヒト</sup>ハ若<sup>ワカ</sup>ク死<sup>シ</sup>ヌ  
ルタメニ多<sup>オホ</sup>カリヤ、木<sup>キ</sup>葉<sup>ハ</sup>ヨリモアダナリト云ヘシ更<sup>さら</sup>ニ古<sup>コ</sup>郷<sup>キョウ</sup>  
ヘ歸<sup>カエ</sup>ベカラズト云ケレハ哀<sup>アハレ</sup>ニ思<sup>オモ</sup>タリザラバイトウレシキ事<sup>コト</sup>

トテ人<sup>ヒト</sup>モカヨハヌ深山<sup>ニヤマ</sup>ノ中<sup>ナカ</sup>ニ少<sup>オホ</sup>キ菴<sup>イホ</sup>リニツ結<sup>ムス</sup>テソレニ  
ヒトリツ朝<sup>アサ</sup>夕<sup>ユフ</sup>念佛<sup>ニポフ</sup>ニテスゴシケル。ムゲニ近<sup>チカ</sup>キ世<sup>ヨ</sup>ノ事<sup>コト</sup>  
ナレハ皆<sup>みな</sup>人<sup>ヒト</sup>シリテ侍<sup>シ</sup>リトナン。或<sup>ある</sup>人<sup>ヒト</sup>云<sup>イハ</sup>父<sup>チチ</sup>已<sup>ス</sup>往<sup>イリ</sup>生<sup>ナマ</sup>ヲハンヌ  
息<sup>イ</sup>今<sup>イマ</sup>ニ現<sup>ア</sup>存<sup>ル</sup>云<sup>ハク</sup>

證<sup>シ</sup>空<sup>クウ</sup>律<sup>リツ</sup>師<sup>シ</sup>希<sup>シ</sup>望<sup>ボウ</sup>深<sup>シ</sup>事<sup>ジ</sup>

藥<sup>ヤク</sup>師<sup>シ</sup>寺<sup>ジ</sup>ニ證<sup>シ</sup>空<sup>クウ</sup>律<sup>リツ</sup>師<sup>シ</sup>ト云僧<sup>ソウ</sup>アリケリヨ。井<sup>ツヅ</sup>夕<sup>ユフ</sup>ケテ後<sup>ノチ</sup>  
辭<sup>シ</sup>ニテ夕<sup>ユフ</sup>成<sup>ニ</sup>ケルヲ彼<sup>カ</sup>寺<sup>ジ</sup>ノ別<sup>ヒツ</sup>當<sup>トウ</sup>ノ闕<sup>ケツ</sup>ニ望<sup>ボウ</sup>申<sup>マウ</sup>サント  
思<sup>オモ</sup>ハイカ、アルベキト云弟子<sup>シシ</sup>タルニ同<sup>ドウ</sup>ニサ、ニアルニシキ  
事<sup>コト</sup>也<sup>ナリ</sup>御<sup>ミ</sup>年<sup>ネン</sup>夕<sup>ユフ</sup>ケ給<sup>タマフ</sup>ヒタリツカサヲ辭<sup>シ</sup>ニ給<sup>タマフ</sup>ヘルニ付<sup>ツキ</sup>テモ必<sup>カナラ</sup>  
覺<sup>サト</sup>ス所<sup>トコロ</sup>アランカレト人<sup>ヒト</sup>モ心<sup>ココロ</sup>ニク、思<sup>オモ</sup>申<sup>マウ</sup>タルヲ今<sup>イマ</sup>更<sup>さら</sup>サヤ

ウニ望<sup>ノミ</sup>申給ハ思ハヌル事ニテ人モ心オトリツカニツルベ  
シト理<sup>リ</sup>ヲ盡<sup>ツ</sup>シテイニジウイサメケレド更ニケニト思ヘル  
氣色<sup>キキ</sup>ナシイカニモソノ心サシ深キ事ト見ヘケレバスベテ  
不及カ弟子<sup>ヨリヤヒ</sup>寄合テ此事ヲ歎<sup>ナギキ</sup>ツ、云様此上ニハイカニ  
キユトモ聞入ラルマジイサ空<sup>ソラユメ</sup>夢ヲ見テ身モダエ給バ  
カリ語<sup>カガリ</sup>申サントゾ定ケル日比ヘテ後静<sup>シヅカ</sup>ナル時ヒトリノ  
弟子云ヤウ過<sup>スギ</sup>ヌル夜イト心得又夢ナン見ヘ侍<sup>ハベリ</sup>ツル此  
庭ニ色々十九鬼<sup>ツニ</sup>ノヲソロシゲナルアマタ出来テ六十カマ  
ヲヌリ侍<sup>ツル</sup>ヲアヤシク覺<sup>ツ</sup>テ問<sup>ヒ</sup>ツハ鬼ノ云此坊主ノ  
律師ノ料也ト答<sup>コタ</sup>フルトナン見ヘツル何事<sup>ナニコト</sup>ニカハ深<sup>フカ</sup>キ

ヲハシマサン此事心得ズ侍ル也ト語<sup>カク</sup>ル即驚<sup>オドロク</sup>キ恐<sup>オソ</sup>レント思  
ホドニ耳<sup>ミ</sup>本<sup>モト</sup>ニテ耳<sup>ミ</sup>ミエミエゲテ此所望<sup>シヨモウ</sup>ノ叶<sup>カエフ</sup>ベキニソソ披露<sup>ロウ</sup>  
セラレソトテ。ツカミケレバスベテ云ハカリナクテアヤミニ  
ケリ智者<sup>チシヤ</sup>ナレバ此律師マテモノボリケメ。年七十二  
テ此夢ヲ悦<sup>ヨロコビ</sup>ケンイト心ウキ貪<sup>オン</sup>欲<sup>ヨク</sup>ノフカサナリカレ  
カノ無智<sup>ムチ</sup>ノ公辨<sup>コウベン</sup>カ獨<sup>ドク</sup>覺<sup>カク</sup>ノサトリヲ得<sup>エ</sup>タリケンニハタトヘ  
モナクコソ

親輔<sup>チカホ</sup>養兒<sup>ヤウジ</sup>往生<sup>ヤウジ</sup>事

中比<sup>ナカヒ</sup>壹<sup>イチ</sup>歧<sup>キ</sup>前<sup>ゼン</sup>司親輔<sup>シチンボ</sup>ト云人取<sup>トリ</sup>子<sup>コ</sup>ヲシテヲサナクヨリ  
ハソ、三<sup>ヤシチヒ</sup>養<sup>ヤシチヒ</sup>ケリ此兒ニト云ケル年。スバヲ持<sup>モチ</sup>テアソヒト

して更ニコト物ニフケラス父母コレヲ愛して紫檀ノズ、  
 ヲ取セタリケレバ阿弥陀佛ヲコトクサニ申井タリ。母  
 キ、テ、イサメケレドナラ此事ヲ留メズ六ト云年オモ  
 キ病ヲウケテ日比へテ後床ニ伏ナガラ手遊ニせし  
 念珠ノ傍ニアリケルヲ見テ我スノ上ニキリノ井ニケ  
 ルト云テ深クナゲキタル氣色ナリ是ヲ聞人涙ヲ  
 落シテ哀ニアヘリ。即父母ニ合テ身ノケガラハレク覺  
 ユルニ湯ヲアミハヤト云病重キホドナレ更ニユルサズ其  
 後人ニ助ラレテ西ニ向ツ起居テ音ヲアゲテ  
 聞妙法華經提婆達多品淨心信敬不生疑惑

不墮地獄ト云ヨリ若在佛前蓮華化生ト云一テ誦  
 ソノ聲コトニタヌナリ。ヲサナキ者ナレ六日比人ノヲレフル  
 事ナレ三十驚キアハレフ聲未タヤマヌホドニ眼ヲウケ  
 テイキ絶ニケレハ父母ナキ悲ム事眼ナレ日比へテ後  
 母ヒルウタ、子ニタル時夢トモナクウツミ、モナク此  
 兒ヲ見ル形コトニ目出クキヨラカニテアリケノ母ニ向  
 テ我形ヲハヨク見ルヤト云母ヨク見ルト云兒誦シテ  
 即往南方無垢世界坐寶蓮花成等正覺  
 此文ヲヨミ終リテ即ウセニケリトソ此事ハ喜養二年比也  
 松室童子成佛事

奈良ニ松室ト云所ニ僧アリケリ宮ナンドハワサトナラ  
 ガリケレド徳アリテ用ラレタル者ニナンアリケルツコニ  
 ヲサナキ兒ノコトニイトヲレクスルアリケリ此兒朝夕  
 法華經ヲヨミ奉リケレハ師是ヲウケズヲサナキ時ハ學  
 文ヲコソセメイトケニクシカラズナドイサメラレテ一度  
 ハ隨ヤウナレドヤモスレバ忍々ニナン是ヲヨムイカニモ  
 心カシ深キ事ト見テ後ニ誰モ制セスナリニケリカ、  
 ル程ニ十四五バカリニナリテ此兒イツキトモナクウセ  
 ヌ師大ニ驚テ至ラヌクモナク尋求レド更ニナレ物  
 ノ靈ナンド取レタルナメリト云テナクノ事ナ

ント訪ヒテヤミニケリ其後丹比ヘテ此房ニアル法師  
 薪トラントテ山深ク入タリケルニ木ノ上ニ經ヨム聲キ  
 コユアヤレクテ是ヲ見レバ失ニ兒ナリアサマレク覺  
 ヘテイカニカクテハヲハシマスソサレモナゲキ給フ物ヲ  
 ト云ヘハソノ事也サヤウノ事モ聞ヘントテ逢奉ラント  
 思ヘド便アレキ事ニナリテ至ナン近ツキ奉ラスウレレ  
 ク見ヘ逢タリ是ヘカマヘテヲハシマセト申セト云ケレバ  
 走歸テ此由ヲ語ル師驚テ即來ル兒語テ云ク我  
 讀誦ノ仙人ニ罷成テ侍ルナリ日比モ御戀シク思奉リ  
 ツレドカ様ニ罷成テ後ハ聞ベキ便モナシ大方人ノ當リハ



ケガラハレククサクテ。タユヘクモアラチバ思ナガフニナシマ  
 ウテザリツル間。近<sup>チカウ</sup>テ見奉ル事ハエアル。ト云テ俱<sup>トモ</sup>  
 涙<sup>ナミダ</sup>ヲ落<sup>オトシ</sup>ツ、良<sup>ヤ</sup>ク語<sup>カマ</sup>ラクカクテ歸<sup>カエ</sup>ナントスル時云ヤ  
 ウ三月十八日ニ竹生嶋<sup>チクナシマ</sup>ト云處ニテ仙人集<sup>サンジン</sup>テ樂<sup>カク</sup>ラス  
 ル事侍ルニ琵琶<sup>ビバ</sup>ヲ引<sup>ヒ</sup>ヘキ事ノ侍ルガ。王<sup>オウ</sup>尋<sup>シ</sup>出<sup>デ</sup>シ侍<sup>シ</sup>ラヌ  
 ナリガ。給<sup>タマヒ</sup>ナンヤト云安事<sup>ヤスキ</sup>ナリ何<sup>ナニ</sup>ヘカ奉<sup>オウ</sup>ヘキト云ヘ  
 ハ。子<sup>コ</sup>ニテ給<sup>タマヒ</sup>ラント云テ俱<sup>トモ</sup>ニ去<sup>イ</sup>ヌ。即<sup>ソレ</sup>ヒワラ送<sup>オウ</sup>タリケド。  
 ツノ時八人モナシ。夕<sup>ユフ</sup>、木<sup>キ</sup>ノ本<sup>ホ</sup>ニ置<sup>オキ</sup>テツ歸<sup>カエ</sup>リニケルサテ此  
 法師<sup>ホフシ</sup>ハ二月十七日ニ竹生嶋<sup>チクナシマ</sup>へ詣<sup>マデ</sup>テタリケルニ十八日曉<sup>アカサ</sup>ノ  
 子<sup>コ</sup>覺<sup>サメ</sup>ニ遙<sup>ハルカ</sup>ニエモイハレヌ。樂<sup>ガク</sup>ノ聲<sup>コエ</sup>キコユ。雲<sup>クモ</sup>ニヒ、キ風<sup>カゼ</sup>隨<sup>ツ</sup>

ヒテ。ヨノツ子<sup>コ</sup>ノ樂<sup>ガク</sup>ニモ似<sup>ニ</sup>ズ覺<sup>サメ</sup>テ目<sup>メ</sup>出<sup>デ</sup>カリケレバ涙<sup>ナミダ</sup>コホ  
 聞<sup>キ</sup>居<sup>イ</sup>タル程<sup>ほど</sup>ニヤウクチカクナリテ樂<sup>ガク</sup>ノコエトナリス。トハ  
 カリ有<sup>ア</sup>リテ。エンニ物<sup>モノ</sup>ヲ置<sup>オク</sup>ヲトノシケレバ。夜<sup>ヨ</sup>アケテ是<sup>コト</sup>ヲ  
 見<sup>ミ</sup>ルニアリシ琵琶<sup>ビバ</sup>ナリ師<sup>シ</sup>不思議<sup>フシギ</sup>ノ思<sup>オモ</sup>ヲナシテ是<sup>コト</sup>ヲ我<sup>ワレ</sup>  
 物<sup>モノ</sup>ニセン事<sup>コト</sup>ハ憚<sup>オカ</sup>アリトテ權<sup>ゴン</sup>現<sup>ゲン</sup>ニ奉<sup>オウ</sup>ル香<sup>カウ</sup>バシキ。白<sup>ホク</sup>深<sup>シ</sup>シニ  
 テ日<sup>ヒ</sup>比<sup>ヒ</sup>フレドウセサリケルヲ此<sup>コト</sup>琵琶<sup>ビバ</sup>今<sup>イマ</sup>ニ彼<sup>カノ</sup>嶋<sup>シマ</sup>ニアリ  
 ウキタル事<sup>コト</sup>ニ非<sup>ヒ</sup>ス

發心集卷三

發心集第四目錄

一 三昧座主弟子得法華經驗事 二

一 淨藏貴所飛鉢事 五

一 永心法橋憐乞兒事 七

一 穀實憐路頭病者事 八

一 肥州僧妻為魔事 可恐惡緣事 九

一 女賓係念亞相室事 不淨觀事 十

一 或女房臨終見魔變事 十一

一 或人臨終不言遺恨事 臨終隱事 十二

一 武州入間河沉水事 十三



詣日吉社僧取奇死人事 九

發心集第四

鴨長明撰

三昧座主第字得法華經驗事

中比義穀ト云テ此彼ヲコナヒアリク修行者アリ各  
 熊野ヨリ大峯ニ入テ。三嶽へ出ル間ニ道ヲフミタガヘテ十  
 日餘リガ程ス、ロニ嶮キ谷峯ヲ迷ヒアリキケル身ツカレ  
 カツキテ。イト、アヤウク覺へケレバ心ヲ至テ本尊ニ祈  
 乞、其後カラウシテ平ラカナル處ニ行出タリケリ。ソコニ  
 一ノ松原アリ。林ノ中ニ一ノ菴アリ近ク歩ヨリテ是ヲ見  
 ニエモイハ又新ク作レル屋アリ。物具カザリ皆玉ノ如シ  
 庭ノスナゴ雪ニ不異植木ニ花サキ木ノ實ムスビ前栽

ニサマノクノサク花色コトニ妙也。義叡是ヲ見テ喜フ  
 事カキリナレシ。バレツキヤスミツク此屋ノ内ヲ見ハ聖獨  
 アリ齡ワツカニ計ニヤト見ユ衣袈裟ウルハレク著テ  
 法華經ヨミ奉ル此聲妙ナル事タトヘテ云ハシ方ナレ。フ  
 卷ヲヨミラハリテ經ツクエノ上ニ置バ其經人モ手フレヌニ  
 ミツカラマキカヘサレテ元ノ如クニナルガクレツク一ノ卷ヨリ  
 八卷ニイタルマテマク事前ノ如シ一部ヨミラハリテ廻  
 向禮拜スツノ、千立出テ此人ヲ見テ驚キ奇ミテ云此  
 所ニ昔ヨリ人來ル事ナレ。山中ニモ深キ山ニハ鳥ノ  
 聲ダニモキコエスイカニシテ來レルツト云。事ノ有

始ヨリカタル即アハレミテ坊ノ内ヘヨヒ入ツトバカリマ  
 テ。カタキエモイハズウツクシキ童子目出キク井物ヲ  
 捧テ來ル聖此僧ニスムレハ是ヨク井ヲハリヌ味ノ妙ナ  
 ル事人間ノ食ニ大方事ニフレ物コトニ不思議ナラスト  
 云事ナレ僧聖ニ問テ云ク此所ニスミテイクトセバカリ  
 ニカナリ給ヘル。又イカナル事カ侍ル何事モヲボス様ナ  
 リヤト云聖ノ云爰ニ栖ツメテ後八十餘年ニナリヌ我  
 本ハ叡山東塔ノ三昧座主ノ弟子ニテナンアリシカ然  
 アルヲイサ、カノ事ニヨリテハシタナクサイナマレシカ  
 バ愚ナル心ニテカレコニ迷ヒアリキテ定タリシ所モ

十カリキ。ヨハヒヲト口ヘテ後此山ニ跡ヲト、メテ今ハ爰  
 ニテオハラシ事ヲ待也ト云フ。僧イヨクアヤシク覺テ  
 重テ問フ人來ラヌ由ノ給ヘド目出童子アリ、夕見テ  
 是御偽ニ似タリ聖ノ云天諸童子以爲給仕十二カ  
 ハアヤシカラシト云。僧又同クヨハヒ夕ケタル由ヲノ給  
 ド御形ヲ見レハ若クサカリナシ。是又ヲボツカナシ聖  
 ノ云々得聞是經病即消滅不老不死更ニカザレル事  
 ニ非ス。カクテヤ、程フル間ニ聖此僧ヲス、メテ云トク  
 歸リ給エト云。僧歎テ云。様日比迷アリキツルホビニ  
 身ツカレカツキテ忽ニ歸ベキ心地モセス。況ヤ日既  
 既

キテ夜ニ入ナントス。何ノ故ニカ聖我ヲイトヒ給ハル  
 ト云フ。聖ノ云様イトフニハ非ス。遙ニ人間ノケヲ離テ  
 ラ、クノ年ヲヘタル故ニス、メキコユハカリ也。若今夜ト  
 ラシトナラバ身ヲ動サズ音ヲタテズシテ并タレトラレ  
 フ。僧聖ノヲシヘノ如クカクレツ、居タリヤウク夜フル  
 程ニ風俄ニ吹テ常ノ氣色ニアフズ。即サ、ノ形ニ  
 タル鬼神諸ノ夕ケキケダモノ數モ不知集ル馬面十  
 ルモアリ。牛ニ似タルモアリ。又鳥ノカレラナルモアリ。鹿  
 ノ形ナルモアリ。各々香花ノ如ク夕ケ物ノ類ニ諸ノ飯  
 食ヲ捧テ松ノ庭ニ高キ机ヲ立テソノ上ニ置ツ、掌ヲ

合テ敬ヒヲカミテ。ヒラビ井ヌ。此中ニ或ル輩ノ云アヤシ  
キ哉常ニ似ズ人問ノケアリ又或カ云何人カ爰ニ來  
ラント云其後聖發願シテ法華經ヲヨム曉ニ及テ  
廻向スル時此諸ノ輩敬ヒ拜シテ去ヌ僧問テ云此様々  
形シタル物數モ不知何ノ類ヒ何ノ所ヨリ來ルルノ聖云  
吾人在空閑我遣天龍王夜叉鬼神等爲作聽法衆  
コレナリト云フサレノ不思儀ヲ見聖 詞ヲキ之貴  
クタノモシキ事限ナシ明ヌレバ今ハ歸ナント思テ猶道ニ  
トドハン事ヲナゲク聖ノレルベシイテ送り申ベシト云テ  
水瓶ヲ取テ前ニ置ク其水瓶ヲドリヲリテ。アウクサレ

ニ行其カメノ後ニツキテ行マニニ時計ヲ經テ山ノ頂ニ  
ボリヌ爰ニテ見ヲロセハ麓ニ人里アアツノ時水瓶空ニ  
ノボリテ本ノ處ニ飛歸ニケリ此人里ニ行出テ此事ヲ  
語リツタヘタリケル也記トテ彼此ニシルニ置ケル文アレ  
ド事繁ケレバ覺ルバカリヲ書タルナリ

淨藏貴所飛鉢事

淨藏貴所ト聞ユル善宰相清行ノ子並ボナキ行人也山  
ニテ鉢ノ法ヲ行ヒテ鉢ヲ飛シツ過ケル比或日空シキ  
鉢バカリ歸來テ入ル物ナシアヤシク思程ニ此事ツケ  
テ三日二十リヌ敬馬テ道ノ間ニ何ナル事ノアルソ見シト

思テ四日ト云日鉢ノ行方ノ山ノ峯ニ出テ伺ケル程ニ我  
 鉢ト覺クテ京ノ方ヨリ飛クルヲ北ノ方ヨリ又アラヌ鉢  
 ノキ合テソノ入物ヲウツシ取テ本ノ方ヘ歸リ行アリケ  
 リ。是ヲ見ルニイト安カラスサリトモトコソ思フニタヒバ  
 カリカハ我鉢ノ物ウツシトルワザラセシ此事目ザミルキ者  
 ノレワサ哉見シト思テ我カ空キ鉢ヲ加持シテ其ヲシル  
 ベニテナシハルくと北ヲ指テ雲霧ヲシノギツ分入ケル  
 今ハ二三百町モキヌラシト思程ニアル谷ハサマノ松風ヒ  
 ビキ渡テイサギヨクコノモシキ所ニ一間バカリナル草ノ菴  
 アリ砌ニ苔青ク軒近ク清水流レタリ内ヲ見レバ年々

カキ僧ノヤセヲトロヘタル只ヒトリ居テ脇息ニヨリカ、リ  
 ツ經ヲヨムイカニモ只人ニアラズ此人ノレワザナメリト思  
 程ニ淨藏ヲ見テ云ヤウ。何クヨリイカニシテ來リ給ヘル  
 人ゾラボロケニテモ人ノマウテクル事モ侍ラヌヲト云  
 其事ニ侍リ我ハヒエノ山ニス三侍ケル行者也。シカルニ  
 月日ヲ送ルハカリ事ナクテ此程鉢ヲトバシツ行ヲ  
 シ侍ルニ昨日今日コトクシクアヤシキ事ノ侍リツヒバ  
 ウレヘ申サントテマイリ來ルナリト云。僧ノ云様エコ  
 ノレリ侍ラ子イト不便ニ侍ル事哉尋侍ラントテ。シ  
 ノヒ二人ヲヨフ即菴ノウレロノ方ヨリイラヘテ來ル人ヲ

三レバ十四五バカリナルウツクシキ童子ノウルハシク唐装束シタルナリ。僧是ヲイサメテ云様此仰ラル事ハ汝ガレワザカイトアタラヌ事也。今ヨリハサルワザナセソト云ヘバガホウキアカメテ物モイハテ歸リヌカク申ツレバ今ハヨモサヤウノワザハ仕ラジト云。淨藏不思議ノ思ヲナシテ歸リサラントスル時。僧ノ云ヤウハルクト分來給テ定テクルシク覺スラン。シハシ待給へ饗應シ奉ラントテ。又人ヲヨブ同シサマナル童子イラヘテサシ出タリ。カクトヲキ程ヨリワタリ給ヘルニシカルベカラシ物マイラセヨト云ケレバ童子歸リ入テルリノサラニ唐梨ノムキ

タルヲ四イレテ檜扇ノ上ニ並テ持來。其ソレトスムレハ是ヲ取テクフ味ノムキ事天ノ甘露ノ如レワツカニ一菓ヲクフニ身モ冷ニカラツキテナン覺ヘケル。即雲ヲ分ツ、歸ルホドニ道モ千カクシク見ヘサリケレバ何トモ覺ヘズソノサマ只人トハ見ヘサリキ讀誦仙人ナントノ類ニヤトゾ語リケル

永心法橋憐乞兒事

永心法橋ト云人近比ノ事ニヤ。清水へ百日マイリケル時日暮テ橋ヲ渡リケルニ河原ニイミジウ人ノナク聲キコヘル。ナニ物ノイカナル事ヲウレフルニカト覺ツカナキ内



ニモ觀音ハ哀ニテ先トシ給ヘリ。其徳ヲアフキ奉リテ  
 ヲウテナガラ。ナサケナク訪ハテ過ン事コソイトアヤシ  
 ケレト思テ。聲ヲ尋ツ。近ク至リテ十二者ノカクハナク  
 ソト問フ。カタワ人ニ侍リト答フ。何ナル事ヲカ愁ルト問ヘ  
 バ我カタワニ罷ナリニシ後シル人ニモ悉ク別レテ寄  
 所モ侍ラヌニヨリ先ダチテカタワナル人ノ家ヲカリテソ  
 コニヤドリ居テ侍レバ日ルハヒクラレト云ハカリセタメ仕  
 侍リウシトテモナレ又身ナレバ又物ヲ乞テ壽ヲツガ  
 ント仕ツルトニカクニ身ノクルシサ申ツクスベキ方ナシ  
 餘ノ方ニ打ヤスムベキヲ又此病ノ苦痛ニ責ラレテ。子ラ

レ侍ラス切焼カ如クウツキヒラキ身モホトヲリテ堪忍  
 フベクモアラ子バ若ヤタスカルト川ノホトリニマウテ來テ足  
 ヲヒヤシ侍ルナリ。古ヘ世々ニイカナル逆罪ヲ作リテカ、  
 ル報ヲ受ツラント。カナシク心ウク侍ルニソノカニ住山ニテ  
 如形學問ナンドシ侍リレハ大師ノ釋ニ唯圓教意逆即  
 是順自餘ニ教逆順是故ト云文ヲ只今思出テ。心  
 ヲ靜ニ思ツケ侍ル貴クタノモシク覺ヘテトニカクニサケリ  
 モシアエズナカレ侍ル也トカタル。永心是ヲキクニ哀ニイト  
 ヲレキ事カギリナシ。即我一山ノ同法ニコソアリケレト  
 テ涙ヲ流ツ。自ラキタリケルガタヒラヌキテトラセテ逆

即是順十ルヤウ子ンゴロニヤ、又ク説聞セテ去ニケ  
リ。年比ラヘヌレド忘ズトナンカタリケル

穀實憐路頭病者事

山ニ穀實阿闍梨ト云テ貴キ人有ナリ御門ノ御十  
ヤ三重クヲハシマシケル比忍ケレバ度ク辞シ申ケレト。  
カサ子タル仰セイ十モカタクテ。ナマシ井ニ罷ケル  
道ニアヤシゲナル病人ノ足テモ叶ハズシテ或所ノ築  
地ノツラニヒラガリ伏セル有ケリ阿闍梨是ヲ見テ  
悲ノ涙ヲ流ツ車ヨリヲリテ哀ニ訪フタ、三求テシ  
カセ。上ニカリヤサシヲホヒク井物求アツカフ程ニ良

又クナリニケリ勅使日暮又ベシイトクヒンナキ事也  
ト云ケレバ恭ルマヅキカクソノ由ヲ申セト云フ御使  
驚テユヘヲ問フ阿闍梨云ヤウ世ヲ厭テ心ヲ佛道  
ニ任セシヨリ御門ノ御事トテモアナガチニタツトカ  
ラスガ、ル非人トテモ又愚カナラス只同シヤウニ覺ユ  
ル也ゾレニトリテ君ノ御祈ノタメシルミアラン僧ヲメ  
サンニハ山々寺々ニ大カル人誰カハマイラザラン更ニ  
事カクマヅ此病者ニ至リテハイトヒキタナム人ノミ  
アリテ。近ツキアツカフ人ハアルベカラス。若我ステ、サ  
リナバポトク壽モツキヌベシトテ彼ヲノミ哀ニタス

クル間ニツ井ニ参ラスナリニケレバ時ノ人アリガタキ  
事ニナン云ケル此阿闍梨アツヤリヲガリニ往生ヲトゲタリク  
ハレク傳デンニアリ

肥州僧妻為魔事 可惡惡縁事

中比肥後國ニ僧アリケリ本ハ清カリケルヲ。年トシ半ナハタ  
ケテ後メヲナシニウケタリケルガ、レドナヲ後世ノ事  
ヲ思放シモヒキタズ理觀リクワンヲ心ニカケツ、ツノ勤ツトメノ為ニ別ワニ  
屋イヲツクリテ彼カヲ觀念クワンニノ所ト定サメテ年比ツトメ  
行ヒケリ此妻ツメ男ヲトコノ為心サシ深ク事ニフレテ子コゴロ  
ナリケレド、イカ、思ヒケン病ヤヲ受ツケタリケル時此妻

ニウチトケス相アイ知ヒレル僧ヲヨビテ忍シノビ語カラフヤウ若ヒ  
限カキナラン時ハ穴アナ賢カシラ々々メノ方ニツゲ給フナコトサラ  
少コシ思フ故アリト云ケレバツノ心エテノミアツカフ程  
ニ。イトモワツラハズ終ツリ思フサニ目メ出タクシテ西ニ向テ  
イキ絶ニケリサテシモアルベキナラ子バドバカリアリ  
テ妻ニ此事ヲツグ。即ヲトロキマドヒヲビタ、シク手  
ヲタ、キテ眼ヲイカラカシモダへ迷イロヒテ絶イリス。  
人ヲギテ近チカキモヨラザリケル間ニ時計アリテ世ニ  
ヲシロシウ聲ノアル限リヲメキサケビテ云様我シ狗ク留ル  
孫佛ソノ時ヨリ此ヤツカ菩提ホヲ妨サゲンタメニ世々セ生キタ

二妻トナリ男トナリサマシタシニタバカリテ。今テマ  
 デ本意ノ如ク隨ヒツキモタリツルヲ今日ステニ。ニ  
 ガレツル子タキワザ哉ト云テ。ハラク井シハリカキカ  
 ベヲタ、ク人井ト、ヲソレヲノ、キテ皆イカクシタ  
 ル間ニイツキトモナク失ニケリ。其後ツ井ニ行方  
 ラズトナン往生傳ニ六衆平ノ比ト註セリ。是一人が  
 上ニアラス悪魔ノサリガタキ人トナリテ二世ヲ妨  
 ル事ハタシモ必ズアルベキ事也。カレハ此事ヲ心ニカケ  
 ツ、シタシキウトキワカズ善ヲス、ムル人アズ佛菩  
 薩コソサマシク形ヲ變ジテ人ヲ化度シ給へ若化

身カ。若又其便カトムツミシク思ヒツミヲ作ラセ功  
 徳ヲ妨テ執ヲ留メン人ヲバ。生々世々ノ悪縁ト恐レ  
 テ遠サカラン事ヲ願フヘシ。大方人ノ心ハ野ノ草ノ風  
 ニ隨ガ如シ縁ニヨリテナヒキヤスシ。タレカハ道心ナキ  
 人ト云ヘド佛ニ向ヒ奉リテ掌ヲ合セサルイカナル  
 智者カハゴビタル形ヲ見テ目ヲ悦バシメザル彼淨藏  
 貴所ハ日本第三ノ行人ナレド。アフミノ守ナガヨガムス  
 メニ契ヲ結ベリ。父米ノ仙人ハ通ヲ得テ空ヲ飛アリキ  
 ケレド。ケス女ノ物アラヒケルハギノ白カリケルニ欲ヲ  
 發シテ仙ヲ退シテ只人トナリニケリ。今ノ世ニモ手足

ノ皮ヲハギテ指ヲトボシツメヲクダキ。サテカタクワラ  
サヘツケニ佛道ヲ行フ人ハツノ發心ノホド隠ナケレド。  
悪縁ニアヒテ妻子ヲウクルタメレ多カリ我モ人モ凡  
夫ナレバダ、近ヅカヌハシカヌ也。

玄賓係念亞相室事 不淨觀事

昔玄賓僧都イミジウタウトキ人ナレバ高キモ賤モ  
佛ノ如ク思ヘリケル中ニ大納言ナル人ナシ。年比コトニ  
相馮ニ給タリケルカ、ル間ニ僧都ソコハカトナクナヤ  
ミテ。日比ニナリヌ大納言覺束十サノアマリニ自ラ渡  
給テ。サテモイカナル御心地ニカナント。コトヤカニトアラ

ヒ給ヲ。近クヨリ給へ申侍ラントアレバアヤシクテサレヨリ  
給ヘルニ忍テキコユ誠ニハコトナル病ニモ侍ラズ。一日殿ノ  
御モトヘミウデタリシニ北方ノ形イト目出テ見へ給ヘリ  
シヲ。ホノカニ見タテマツリテ後物覺へズ。心トヒム子ヲ  
タカリテ。イカニモ物ノ云レ侍ラヌ也。此事申ニツケテ憚  
アレド深ク馮奉リテ又ナリヌ。イカテカハ隔奉ラン  
ト思テナントキコユ大納言ヲドロキテ。サレバナドカ  
ハドクハノ給ハザリシ。イト安キ事也。速ニ御ナヤミヲ  
ヤメテメウタリ給ヘイカニモノ給ハンマニ便ヨクハカラ  
ヒ侍ラントテ歸リ給ヌウヘニ。カクトキコヘ給フニサナキ

リ。ナノメニ仰ラレシヤハイトアサニシク心ウケレトガク  
懇ニ覺チシヨシハカラフ事ナレバフボイナヒ給ンソノ用意シテ  
僧都ノカナヒセサセ給ヘルニイト事ウルハシクホウブク法服タ  
タレクシテ來リ給ヘリ。アヤレクゲニクシカラズ覺  
ユレド間ナンド立テ、サルヤウナル方ニ入レ奉セ給  
フ。ウヘノウツクシフトリツクロ井テ居給ヘルヲ一時バ  
カリツクくトミボリテ彈指タンシヲゾ度々タビタビシケルカクテ  
近クヨル事ナクテ、中門ノ廊ロウニ出テ物ヲナンカツキテ  
歸リニケレバ、主弥アルジイヨタウトミ給事限リナカリケリ。不  
淨ビョウヲ觀クワンビテ其執シツヲヒルガヘスナルベシカク云ハ人ノ身

ノケカラハシキ事ヲ思トクナリ。諸モロクノ法三十佛ノ御  
ヲレヘナレドギ、ドヲキ事ハヲロカナル心ニハヲコラス。此  
觀クワンニ至リテハ目ニ見ヘ心ニシレリ。サトリヤスク思ヤスレ  
若人ノ爲ニモ愛著アイシヤクシ自ラモ心アラシ時ハ必ス此相サマヲ  
思ベシト云リ。大方人ノ身ハホ子コシ、ノアヤツリ朽クタル家  
ノ如シ。六府五藏ロクフゴサウノアリサマ毒地ドクヂノワダカマルニコトナ  
ラス。血ハ體タイヲウルホシ筋次目スチツキヲヒカヘタリ。ツツカニウス  
キ皮カワヒトヘヲホヘル故ニ。此諸ノ不淨ビョウヲカクセリ。粉コヲ  
施ホトシ。タキ物ヲウツセド誰カハ偽イツルカザリトシラザル。  
海ウミニ求モトメ山ニエタル味アヂモ一夜ヘヌレハ悉コトクク不淨トナリ

又。イハバエカケルカメニ糞穢ヲ入グサリタルカバ子ニ錦  
ヲトヘルカ如シ。若タトヒ大海ヲ頃テアラフ共キヨマ  
ルベカラス。若梅檀ヲタキテニホハストモ。又クカウバシ  
カラジ。況ヤタマシヒ去壽盡ヌル後ハ空クツカノホトリニ  
捨ツベシ。身フクレクサリ。龍レテ終ニ白キカバ子トナリ  
真ノ相ヲ知故ニ念々ニ是ヲ厭ヒ愚ナル者ガカリク  
色ニラケリテ心ヲドハス事タトヘバガウヤノ中ノ虫ノ  
糞穢ヲ愛スルガ如シト云ヘリ

或女房臨終見魔變事

或宮腹ノ女房世ヲ背ケルアリケリ。病ヲウケテ限十

リケル時善知識ニアル聖ヲヨビタリケレバ念佛スムル程  
ニ此人色マサヲニナリテ恐レタル氣色ナリアヤシニテ  
イカナル事ノ目ニ見ヘ給ゾト問ヘバゾロシゲナル者共  
ノ火ノ車ヲ井テ來ルナリト云フ。聖ノ云ヤウ阿弥陀  
佛ノ本願ヲツヨク念ジテ名号ヲオコタラス唱ヘ給ヘ五  
逆ノ人タニ善知識ニアヒテ念佛十度申ツレバ極樂  
ニ生ル況ヤサ程ノ罪ハヨモ作り給ハシト云即此ヲレヘニ  
ヨリテ聲ヲアゲテ唱フレバリアリテ其氣色ナラリテ  
悦ベル様ナリ。聖又是ヲ問フ語テ云ク火ノ車ハウセヌ。  
玉ノカザリシタル目出キ車ニ天女ノ多ク乗テ樂ヲシテ

向ニ來レリト云フ。聖ノ云クツレニ無<sup>ノラ</sup>シト思<sup>ヲホシメス</sup>召ベカラス猶  
猶タ、阿弥陀佛ヲ念<sup>チン</sup>ヒ奉リテ佛ノ迎<sup>ムカヒ</sup>ニ預<sup>ヨシカ</sup>ラントヲボ  
セトヲレス。是ニヨリテ猶念佛ス又レバレアリテ云ク玉  
ノ車ハウセテ墨<sup>スミ</sup>染<sup>ソメ</sup>ノ衣キタル僧ノ貴<sup>タツト</sup>ケナル只ヒトリ  
來リテ今ハイサ給へ行<sup>ユク</sup>ベキ末<sup>ス</sup>ハ道モレラヌ方ナリ。我  
ソヒテレルベセント云ト語ル。努<sup>ヌ</sup>々<sup>ク</sup>ソノ僧ニ具<sup>ツ</sup>セントヲボ  
ス十極樂ヘミイルニハレルベイラス。佛ノ悲願<sup>ヒツツ</sup>ニノリテヲ  
ノツカラ至<sup>イタ</sup>ル國ナレバ念佛ヲ申テヒトリマイラントヲボ  
セトス。トバカリアリテアリツル僧モ見ヘス人モナレト  
云フ。聖ノ云クソノ隙<sup>ヒマ</sup>ニトクマイラント心ヲ至<sup>イ</sup>レテツヨ

ク覺<sup>サト</sup>シテ念佛<sup>ニ</sup>給ヘトヲレフ。其後念佛五六十年返<sup>カ</sup>カ  
リ申テ。聲ノウツキニイキ絶<sup>タ</sup>ニケリ。是モ魔ノサ<sup>カ</sup>マ<sup>キ</sup>ニ形<sup>カタ</sup>  
ヲカヘテタハカリケルニコソ

或<sup>シ</sup>人臨終<sup>リンシウ</sup>不言<sup>ニ</sup>遺恨<sup>イコン</sup>事 臨終隱事

年<sup>トシ</sup>比<sup>ヒ</sup>アヒ知<sup>チ</sup>人アリキ。過<sup>ス</sup>ヌル建<sup>ケン</sup>久<sup>キウ</sup>ノコロヲモキ病ヲ受<sup>ウケ</sup>  
タリケル時<sup>トキ</sup>。瀕<sup>タ</sup>タリケル聖<sup>セイ</sup>ヲヨビケレバ行<sup>ユク</sup>テ念<sup>ニ</sup>比<sup>ヒ</sup>ニ身<sup>ミ</sup>  
アツカヒケリ。ガクテノドカニ此人ノサマヲ見<sup>ミ</sup>ニ。病ノアリ  
サマイト心得<sup>ココロ</sup>ズ。日ニソヘテヨハリ行<sup>ユク</sup>ヲ自<sup>ミツ</sup>ラハ死ヌベシト  
モ思<sup>ヒ</sup>モヨラス。アタリノ女房ナンド。マシテカケテモ思  
ヨラサリケリ。此人イトケナキ子ア。タアル中ニ殊<sup>コト</sup>ニカ



ナレウナシスルムス又獨リアリケル。子共ノ母ハ先ニテカ  
 クレニレカバ。其ヲフカクナゲキテ。又コト人ヲモ見ヌ。此  
 ムスメノ旁カタラニナシ子ニナレル事ヲ哀アハレミツ。此程ムコトラ  
 ントテサマクイトナシ沙汰サタシケレバ。サヤウノ事病々  
 モ猶ヲコタラス此聖イトアサミクヲロカニモ有哉ト  
 見レドナノメナル程八人ヲ憚ハバテ云出ス十日ハカリア  
 リテマメヤカニ重ラモクナリヌル後主ヌシモヤウク心細ココロボクケニ思  
 ヒ人モヲノツカラノ事モヤナント思ヘル氣色ケシキヲ見テ聖  
 憚ハバナガラ有待ノ身ハ思ハズナル物ゾ。跡アトノ事ナト兼カキテ  
 定サタメ置給ヘガレナド云出タルニ誠マコトニサルベキ事ト云ラ

聞テ。ヲサナキ子共アタリノ人マテ。サトウチナク氣色  
 イトハカナゲナリ。今夜ハクラシ明日コソハト。ノドムル程  
 ニ其夜ヨリ殊ニ重クシテ。イタクルシゲナリ。人々驚オドロク  
 キテ處トコロ分ワケノヤウヲ申合アヒテ定サタメ給ヘ御跡アトユクエナクナ  
 リヌベシト聖勸スム。誠ニトテ如何イカ様ニカ侍ルベキト云ヘバ  
 アルベキヤウハトテ。クルシゲナルヲ念オモヒテ。コソノト一時  
 バカリ云ツバクレト舌シタモタリニケルニヨソ。何トモ聞分キク侍  
 ラスト云ヘバ。サラハ紙カミト筆フデトヲ給ヘアラノク書付ント云  
 即トラセタレド。手モワナ、キテエカ、ズ。ウツカニ書付カキテ  
 タルハ。タガハヌミ、ズカキナリズベキ方ナクテ。ヒメギミラ

メノト日比思ヒコロカロタリケル趣ヲハニカクト云ニハカラヒ  
 書カキテ見ユレドカシラフフリテトクヒキヤリ給ヘト云  
 ヘバヒキヤリツスベテ不及カサスガニ心ハタカハ又ニヤサマ  
 く思フ事ヲ又云アラハサズナリヌルヲ心憂ク思ヘル  
 氣色哀ケキキアムニカナシキ事限ナシ。夜ノ中計ハカリ是程ノ心アル  
 ヤウニ見ヘケル明ヌレバ物モ覺ツクズ事ヨロシキ程ハ處シヨ分ノ  
 事紛ヒキニケリ。今ハトテ念佛スムムレト云甲斐ナキ様サマ  
 也。角カクテ明ル日ノ巳ミノ時計ヲ大ニ驚ケル氣色ニテ二度  
 バカリアメキテ躑ハカ而息絶ヌルハ若モシヲソロシキ物ナンド  
 ノ目ニ見ヘケルニヤ。此事トヲキ程ナレバ後ニ傳ツクヘ聞キテ

今一度相見ズナリヌル事ヲ口惜ク思ケル程ニ。昨日バカリ  
 過テ彼人ヲ夢ニ見ルナヘラカナル布衣ホイツ子ノサマニカハラ  
 ス對面タイメンシタル事ヲ悦ヨロコベル氣色ナカラ物ヲバイハスガクニテ  
 タ、向居カヒキタリト思テサメヌ。即ツツニソノ形カタチアザヤカナリ。  
 ヤウク程フルマ、ニウス、ニニナリ行ユクハテニハ人ノ形トモナク  
 ケラリノヤウニ見ヘテ消キユウセニキ。其面影オモカケ今ニ忘ワスレカタク  
 ナン侍ハヒル大方人ノ死ヌルアリサ。アハレニカナレキ事ヲ  
 ホカリ。物ノ心シラン人ハツ子ニヲハリヲ心ニカケツ、苦ク  
 スクナクシテ善知識ゼンチキニ合アハシ事ヲ佛菩薩ブツハツニ祈奉ルヘ  
 シ。若モシアシキ病ヤヒヲウケツレバソノ苦痛クツムニ責セメラレテ臨終リンシウ

思ヤウナラズラハリ正念ナラ子バ又一其ノ行ヒモヨシ  
十ク善知識ノス、メモカナハス。設ヒ若臨終正念ナレ  
ドモ善知識ノラシフルナケレバ又カイナシ生涯タ、  
今ヲ限リト思ニ恩愛ノ別レト云名利ノ餘執ト云  
見ル物キク物ニラレツ、心肝ヲクダカスト云事ナシ  
何ノ心ノヒニカ。浄土ヲ子ガハシトスル。然ラ念佛切ツモリ  
運心年ヲカキ人ハ加被ノ故ニラハリ正念ニシテ必善知  
識ニアス耳。耳ニ六誓願ノ外ノ事ヲキカズ。口ニ六稱名ノ外  
事ヲイハズ。最初引攝ヲ期スレハ妻子ノ別モナクサニ又  
五妙キヤウ界ヲ思ヘバエトノ執モアラス。口ニ進

テツ井ニ往生ヲトグル也。或ハ兼テ死期ヲヒリ。心モトナ  
ク待事國ヲ出ベキ人ノ其日ヲ望カ如シナント云ヘリ  
何況ヤ聖衆ノ來迎ニ預リテ樂ノ聲ヲキ、妙ナル香  
ヲカギ、一サレク尊容ヲ見奉ル時。心ノ内ノタノシニ説ツ  
クスベカラスガ、レバタトニ道心スクナクトモ、スリヲ恐  
レシ爲ニモ、イカ、往生ヲ願ハザラン

武州入間河沉水事

武藏國入間河ノホトリニ大ナルツ、ミヲツキ水ヲフセキ  
テ其ノ内ニ田畠ヲ作リツ。在家ヲ、クムラカリ居タル  
處アリケリ。官首ト云男ナシソコニ宗トナル物ニテ年

ゴロスミケルアル時五月雨日比<sup>ヒ</sup>比<sup>ヒ</sup>二十リニ水イカメシウ  
出タリケルザレド未夕午比此堤ノ切タル事ナケレバ  
サリトモト驚<sup>オドロ</sup>カスカル程ニ雨イコホス如クフリテ。ソ  
ビタ、シカリケル夜中ハカリ俄<sup>ニ</sup>イカツチノ如クヨニソ  
ソロシクナリドヨム聲アリ此官首ト家ニ子タル者トモ  
皆驚<sup>オドロ</sup>キアヤシニテ。コハチニ物ノ聲ゾトヲツレアヘリ。官  
首<sup>ラツド</sup>等<sup>ト</sup>ヲヨビテ堤ノキレヌル<sup>ヲ</sup>覺<sup>ヲ</sup>ユルゾ出テ見ヨト云  
ス。即<sup>ト</sup>千<sup>ハ</sup>ヒキアケテ見<sup>ラ</sup>ニ。二<sup>ニ</sup>三<sup>ニ</sup>町<sup>バ</sup>カリ、レラニワタリテ  
海<sup>ウミ</sup>ノ面<sup>ヲ</sup>テトコトナラスコハイカ、セント云程コソアレ。水  
夕、増<sup>マ</sup>ニマサリテ。天井<sup>テ</sup>マテツキヌ。官首ガ妻<sup>メ</sup>子<sup>コ</sup>ヲ<sup>ハ</sup>破<sup>ク</sup>

テ。アルカギリ天井<sup>テ</sup>井<sup>ツ</sup>ニノホリテ。ケタウツバリニ取付<sup>トリツキ</sup>テサ  
ケ。ゴノ中<sup>ウチ</sup>ニ官首<sup>クニ</sup>ト郎<sup>ラ</sup>等<sup>ト</sup>トハラキ板<sup>イタ</sup>ヲカキアゲテ  
ム子<sup>ムコ</sup>ニノボリ居<sup>イ</sup>テイカサマニセント思<sup>オモ</sup>ムクラス程ニ  
此家<sup>コノ</sup>ユルクトユルギテ。ツ井<sup>ツ</sup>ニハレラノ根<sup>ネ</sup>ヌケヌ。堤<sup>ツツ</sup>ニ  
カラウキテ漆<sup>ニ</sup>ノ方<sup>カタ</sup>へ流<sup>ナ</sup>ユク其時郎等<sup>ラト</sup>ヲトコノ云  
ヤウ今<sup>イマ</sup>ハカウニコソ侍<sup>シ</sup>メレ。海<sup>ウミ</sup>ハ千<sup>チ</sup>カクナリヌ。漆<sup>ニ</sup>出  
ナバ此<sup>コノ</sup>ヤハ皆<sup>ミ</sup>浪<sup>ナミ</sup>ニウ<sup>ウ</sup>千<sup>チ</sup>クダカレヌベシ。若<sup>モシ</sup>ヤト飛<sup>ト</sup>入<sup>ル</sup>テヲ  
ヨギテ心<sup>ココロ</sup>ニ給<sup>タ</sup>ヘカク廣<sup>ヒロ</sup>ク流<sup>ナ</sup>レキリタル水<sup>ミヅ</sup>ナレバ自<sup>ミ</sup>ラ淺<sup>アサ</sup>  
キ所<sup>トコロ</sup>モ侍<sup>シ</sup>ラント云<sup>イ</sup>ヲキ。テ。ツサナキ子<sup>コ</sup>女<sup>メ</sup>房<sup>バウ</sup>ナンド  
我<sup>ワ</sup>ステ、イ<sup>イ</sup>ツ<sup>ツ</sup>千<sup>チ</sup>ヘイマヌルゾトヲメク聲<sup>コエ</sup>寂<sup>ムカ</sup>悲<sup>シ</sup>ケレ

卷八集四

ドトテモ能テモ助<sup>タス</sup>ベキ<sup>カ</sup>ガ<sup>ラ</sup>シ<sup>シ</sup>我等<sup>カ</sup>ヒトリ<sup>ラ</sup>タニモシ  
ヤト思テ即等男ト共ニ水へ飛<sup>ト</sup>入ル程ノ心ノウキイ  
ケルニモアラス。レバレハフタリ云合セツ、ヲヨギ行<sup>コ</sup>ト水  
ハ早<sup>ハヤ</sup>クテハテハ行<sup>ユク</sup>未<sup>ス</sup>レラスナリ又官首タビトリイツ  
キトモ無<sup>ナ</sup>ユカル、ニカセテヲヨキ行<sup>カ</sup>ハス<sup>テ</sup>ニ盡<sup>ツキ</sup>ナ  
ントス水ハ何<sup>イ</sup>クヲキハトモ見エス。今<sup>イマ</sup>ツヲボレシヌルト  
心ホソクカナシキマ、ニカコツカキニハ佛<sup>ブツ</sup>神<sup>ジン</sup>ヲメ念<sup>ネン</sup>レ奉  
リケル。イカナル罪<sup>ツミ</sup>ノムクヒニカ、ル目ヲ見ルラント思ハ  
又事ナク思ユク程ニ。白浪<sup>シラナミ</sup>ノ中ニイサ、カクロニタル處  
ノ見ユルヲ若<sup>モシ</sup>地<sup>チ</sup>カトテカラウレテ。ヲヨキツキテ見

レハ流<sup>リ</sup>殘<sup>リ</sup>タルア<sup>レ</sup>ノ未<sup>ス</sup>葉<sup>ハ</sup>ナリケリ。ガハカリノアサリモ  
無<sup>ナ</sup>リツゴ、ニテレ<sup>レ</sup>カヤ<sup>カ</sup>ヤ<sup>カ</sup>スメント思<sup>シ</sup>間<sup>マ</sup>ニ次<sup>ジ</sup>第<sup>ダイ</sup>ニ悉<sup>シツ</sup>ク  
一トヒツクヲ驚<sup>オドロ</sup>テアサクレバ皆大クナワ也。水ニ流  
レ行<sup>ユク</sup>クナワ<sup>レ</sup>モノ此<sup>コノ</sup>蘆<sup>アシ</sup>ニワツカニ流レカ、リテ。次  
第<sup>ダイ</sup>ニクサリツラナリツ、イクラトモナクワダカ<sup>カ</sup>リ井  
々<sup>ツツ</sup>ケルガ物ノサハルヲ悦<sup>ヨクニヒ</sup>テマキツクナリケリ。ムクツ  
ケナクケウトキ事タトエシ方ナシ。空<sup>ソラ</sup>ハスミヲ又リ  
タランヤウニテ星<sup>ホシ</sup>一モ見エズ。地ハサナカラ白浪ニテ  
イサ、カノアサリダニナシ。身ニハ際<sup>サヘ</sup>ナククナワ<sup>レ</sup>ニキツ  
キテ身モ重<sup>オモ</sup>クハタラクベキ<sup>カ</sup>モナシ。地<sup>チ</sup>獄<sup>ゴク</sup>ノ苦<sup>ク</sup>モカ

ハカリニコソハト夢ヲ見ル心地ニテ心ウクカナレキコ  
ト限リナレカ、ル間ニサルベキ佛神ノ助ニヤ思ノ外  
ニ淺キ所ニカキツキテソコニテクナソソハカタハ  
レヨリ取放テゲルトバカリカヤスル程ニ東ニテ三  
ヌレバ山ヲシルベニテカラウシテ地ニ著ニケリ船求  
テ先濱ノ方へ行テ見ルニスベテ目ヲアテラシス浪  
ニ打破ラレタル家ドモ算ヲ打散セルガ如シ汗ニウキ  
寄ラレタル男女馬牛ノ類數モ知ス其中ニ官首カ  
妻子女ドモヲ初トシテ我カ家ノ者ドモ十七人ニト  
リ失テアリケリ泣々家ノ方へ行テ見レバ三十餘

町白河原ニナリテ跡タニナシ多リシ在家タクハ置  
タル物朝夕ヨビツカヘシ奴一夜ノ中ニホロビ失ヌ此即  
等男ヒトリ水心アル者ニテワツカニ壽イキテ明ル  
日ヨ尋來タリケルカヤウノ事ヲキ、テモ厭離ノ心ヲ  
ハ發スヘシ是ヲ人ノ上トテ我カ、ル事ニアラマシトハ  
十ニノ故ニカモテ放ルベキ身ハアダニ破ヤスキ身ナ  
リ世ハクルレミヲ集タル世ナリ身ハアヤウケレドモ争  
カ海山ヲカヨハザラン海賊ヲソルベシトテス、ロニ寶ヲ  
スツベキニ非ス况ヤツカヘテ罪ヲツクリ妻子女ノ故ニ身  
ヲホロボスニツケテモ難ニアラ事數モ不知害ニアル

故マ千くナリ。只不退ノ國ニ生レヌルバカリナン諸ノ苦  
三ニナシアハサリケル

詣日吉社僧取奇死人事

中比ノ事ニヤ。事モナキ法師ノ世ニアリ侘テ京ヨリ  
日吉ノ社へ百日々イルアリケリ。八十餘日二十リテ下  
向スル様ニ大津ト云處ヲ過ケルニアル家人ノ二若  
キ女ノ人目モ不知サクリモアヘズヨ、ト泣立ルアリ  
此僧事ノ氣色ヲ見ルニ何事トハシラ子ト。ヨノツ子ノ  
ウレヘニハアラス極ニレル事ニコソト。イトヲ敷覺ヘテ  
サレヨリテ何事ヲカ悲ムト問フ。女ノ云様御姿ヲ見

奉ルニ物詣シ給人ニニソゴト更エナンキユユミジキト云  
憚ルベキ事ナメリトハ推ハカラレナガラ。哀ニノアリ  
ヤ、懇ニ尋ヌレバ其事ニ侍リ我母ニテ侍ル者ノ日  
比ナヤマシ仕ツルヲ。今朝終ニ空クニナシテ侍ナリ。  
サラ又別ノナラヒ哀ニ悲キ事ハサル物ニテ。イカニシ  
テ是ヲ引カクスワザヲセントサマクノクニラセト。ヤメモ  
ナレバ申合ベキ人モナシ。我身ハ女ニテカ及ヒ侍ラズ  
トナリ里ノ人又ナラザリニコソ哀ト訪ヒ侍レ神ノ  
事シゲキワタリナレバ誠ニハイカバハシ侍ラントニカク  
ニ思ウル方無テナンド云モヤラスサメクト泣僧コレ

ヲ聞ニケニサコソハ思ラメト。ワリナクイトラシクテ。良  
久クトモニ泣<sup>ナキ</sup>タテリ。心ニ思様神ハ人ヲ哀ニ給フ故ニ  
濁ル世ニ跡ヲタシ給ヘリ。是ヲ聞ナカラ<sup>イカテ</sup>争カ無情ス  
ギン我カクホドフカキ哀ニヲ起<sup>ツク</sup>セル事オボヘズ。佛モカ  
ニ給ヘ神モユルニ給ヘト思テ。ナ侘<sup>ツク</sup>給ヒソ我トモカク  
モ引カクサン外ニタテレバ人目モアヤシトテ。ハ井入ヌ。  
女ナク<sup>コト</sup>悦事限<sup>カキリ</sup>ナシ。能<sup>カ</sup>テ日暮ヌレバ夜ニカクシテ  
便<sup>タラシ</sup>ヨキ處ニウツシ送<sup>ツク</sup>リツ。其後イモ子ラレザリケルミ  
ニツクくと思様サテモ八十餘日忝<sup>カ</sup>リタリツルヲ徒<sup>イダラ</sup>ニ  
ナシテ休<sup>ヤ</sup>ニナンコソ口惜<sup>ク</sup>ケシ。我此事名利ノ爲ニモ世

ズ只マイリテ神ノ御子カヒノ様ヲモシラン。生レ死ヌル  
ケガラヒハイバカリノイマシメニテコソアラメト。ツヨク  
思<sup>アハツキ</sup>テ曉水アミテ是ヨリ又日吉へウチムキテマイル。  
道スガラサスガニム子打サハキ。ソラヲソロシキ事限<sup>カキリ</sup>ナ  
シ。忝<sup>カ</sup>リツキテ見レバ一宮ノ御前二人所モナクアツシ  
リ。只今十禪師ノカンナギニツキ給ヒテ様々ノ事ヲ  
給フヲリフシナリ。此僧身ノアヤマリヲ思シリテ近<sup>チカ</sup>クハ  
ユヨラス。物がクシニトヲク井テカタノゴトク念誦<sup>ニンジュ</sup>シテ  
日ヲカ、ヌ事ヲヨロコビテ歸ラントスル程ニカンナギハ  
ルカニ見ツケ。アソコナル僧ハ心ヲカナルヤハサレドガ



ルベキ方ナクテ。ワト、<sup>二</sup>サレ出タレバゴ、ラ集レル人  
イトアヤシゲニ思ヘリ。チカクトヨヒヨセテノ給フ様ハ  
僧ノヨンベセシ事ヨアキラカニ見シゾトノ給ヘルニ身ノ  
ケヨ立<sup>チ</sup>テム子フタガリテイケル心地モセズ。重<sup>カサ</sup>テノ給フ  
様ナシチラソル、事ナカレイシクスルモノカナト見シゾ。我  
モトヨリ神ニ非スアハレミノ餘<sup>リ</sup>ニ跡<sup>フ</sup>タレタリ人ニ信  
ヲオコサセンガ爲<sup>ス</sup>ナレバ物<sup>ヲ</sup>イムコトモ又カリノ方便<sup>ナ</sup>  
リ。サトリアラシ人ハツノツカラシリ又ベシタ、此事人ニカ  
タルナ愚<sup>カ</sup>ナル者ハシチカ憐<sup>ミ</sup>ノスグレタルニヨリ制<sup>ス</sup>ル  
事<sup>ヲ</sup>バシラスニダリニ是<sup>ヲ</sup>例<sup>ト</sup>シテ。ワツカニオコセル信

モ又ミダレナントスモロクノ事人ニヨルベキ故ナリ。コトヤカ  
ニ打サ、ヤキテノ給ス僧ノ心ナメナラスアハレニカタ  
ジケナク覺<sup>ガ</sup>ヘテ涙<sup>ヲ</sup>ナガシツ、出ニケリ。其後ユトニ  
フレテ利<sup>リ</sup>生<sup>シ</sup>トオボユル事オホカリナントゾ

發心集第卅

